令和６年度第２回岐阜県先端科学技術体験センター
指定管理評価員会議議事要旨

日時：令和７年１月２４日（金）
１４：００～１５：３０
場所：岐阜県先端科学技術体験センター会議室

■出席者：１２名（敬称略）
評　価　員　　：岡田 貴映、高橋 信一、三宅 崇［定数：４名］
※岡田優子氏は欠席。
指定管理者　　：森井 映美子（株式会社トータルメディア開発研究所）
水谷 幸次（中電クラビス株式会社）
三浦 秀輝、安江 進、田代 学、和田沙欧里（館職員）
岐　阜　県　　：高井 哲也、蒲 祐輔、馬田 勝利（文化伝承課）

■議　題：令和７年度の事業計画について

○開会

○挨拶
文化伝承課　高井課長　より挨拶

○令和７度事業計画
指定管理者　三浦館長　より挨拶
指定管理者（安江副館長）よりパワーポイント資料にて説明

○質疑応答
三宅評価員：外部講師の公開講座の中に「大阪おかんの教育日誌」というものがあるが、どのような経緯で実施されたのか。
三浦(指定管理者)：大阪おかんの講師である全日本科学漫才研究会は、科学と漫才を組み合わせて、科学実験の面白さを伝える講演を全国で行っている団体である。今回来ていただいた２人は、高校の先生と会社員が本職で、先生の方とは昔から付き合いがあったので、今回依頼させていただいた。
堅苦しくなく、子供たちが楽しみながら科学を学ぶことができるので、今後もお願いできればと考えている。

三宅評価員：学芸員研修員の方の講座もあるが、どのような経緯で実施されたのか。
田代(指定管理者)：学芸員研修を受け入れる段階で、講座を行いたいという話があった。研修前から準備いただいていたようだ。ちなみに現在、中学生の職場体験でも同様の取組を行っている。

高橋評価員：「科学行人」という名称について、ただ科学を行うだけじゃなくて、楽しむとか、交流とか、繋がりを作るといったような、更に深い意味を持たせることができないかと感じた。

安江(指定管理者)：検討します。

岡田評価員：公開講座のウェブ申込は抽選か。
安江(指定管理者)：抽選です。
岡田評価員：例えば兄弟で申込んだ場合はどうなるのか。
和田(指定管理者)：大人１人に対して子ども２人まで申込ができ、３名のグループとして当選する。子供が３人以上だと、今のシステムだと２回申込んでいただくことになる。そうすると別個人での申込の扱いとなるので、子供２人は当選して、１人は落選となる場合があり、ウェブ申込の課題の一つとなっている。

○評価員による講評

岡田評価員：クリームソーダを作る公開講座に娘が興味を持ったが、２日間しか開催がなかったので、その日は部活で行くことができなかった。そうすると、また１年後の開催となってしまう。応募もたくさんあったとのことなので、２週にわたって開催するとか、開催数を増やすような検討をしていただけると幸いである。この来館を入口にして、また来ようとなるきっかけになるもしれない。
普段生活していても、子供が何かわからないことあると、すぐスマホで調べたり、親に聞いたりすることが多いと感じる。調べること自体は悪いことではないが、まずは自分で考えてから、というのが減ってきていると子育てをしていると感じることがある。そうした中で、ワークショップで子供たちがまず自分で考えて、大人も夢中になってやれば、子どもが親の真似をしたり、親子で一緒に考えてやるきっかけになるし、科学を通した発育にも繋がっていくので、いいと取組だと思った。
５年生の娘がいるが、担任の先生がSDGsにすごく興味のある先生なのか、学校から帰ってくるとSDGsの話をしてくることがある。SDGsに関する講座を検討しているということで、科学と合わせて学ぶことができるのはいいと思った。

高橋評価員：ワークショップの体験をさせていただき、子供の時に感じた楽しさを思い出して、非常に楽しかった。親子で会話しながら行えることがワークショップの１番の良さだと思う。親子の会話というのが難しい時代になっている中で、科学をきっかけに親子で楽しく会話できるという点をアピールして、親子での入館者数を増やしていけるように頑張っていただきたい。

三宅評価員：ワークショップの中で、ゴムを巻いて作る工作を体験させてもらった。理科というのは、「ここをこう変えるとこうなる」という因果関係を明らかにする学問で、色々試してみるということが学ぶ上で大事なのだが、実際の学校現場だと限られた時間の中で、決まった目標へ誘導していってしまう部分がある。それに対してサイエンスワールドでは、理科の授業よりも色んなことを自由に試すことができるし、時間のことも気にしなくていい。ワークショップで色々なことが体験できるように、裏で工夫をされていることがわかり、すごく感動した。
ファンクラブのスタンプカードが２、３枚目に達している人もいるという話があったように、サイエンスワールドに対して意識がある人は来てくれるが、一方で、ここまで来るに至らないという人もいるのではないか。そ

の中には、近くに来た時に、ついでだから行ってみようとなる人もいると思う。そういった方々にアプローチできる取組として、教育支援センターや市民教育センター等での地域連携事業を今後も頑張っていただきたい。

○閉会